

授業スタイル部会

1 部会テーマ

「学習スタイル」「学習規律」について交流をおこなう

2 活動内容

「授業の中で子供の集中力を持続させるにはどうしたらいいか？」

「生徒たちが主体的に学んでいける授業をするにはどうしたらいいか」

「子どもたちだけ進めていけるような授業をしたい」

「まずやらせてみて、子どもたちが自分たちで課題を見つけられるような授業にしたい」

など、様々な悩みや授業の理想像などがでました。

学習規律については校種ごとに様々な問題がだされました。小、中、高で一貫した指導の指針になるようなものがあればいいのではないか、という意見からニセコ中学校の「授業スタイル」をもとに、各学校で授業規律の指針を検討することになりました。

授業スタイル

ニセコスタンダード
授業を大切にしましょう。

- ① 忘れ物をしたときは、授業前に先生に伝えます。
- ② 授業前に学習用具を机上に準備します。
- ③ チャイム前着席を行います。
- ④ 授業前と終わりの挨拶をきちんとします。
- ⑤ 姿勢を正しくします。
- ⑥ 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします。
- ⑦ 話をするとき、聞くときは相手を見ます。
- ⑧ 積極的に発表を心がけます。



校種が変わってもこの8個が授業規律の基本であることを確認、これをベースに各校種で加筆修正したものを作り、教室などに掲示し、ニセコ町としてこれらを守る子どもたちを育てようということに決まりました。

3 成果

様々な校種が集まることによってそれぞれの校種の課題や取り組みを知ることができました。



英語スタイル部会

1 部会テーマ

◎英語でコミュニケーションをはかる楽しさを育む

～ニセコならではの環境を生かして～

2 活動報告

4月、6月、8月と3回の一斉部会を開催

- ・自己紹介、部会テーマの決定、各校種ごとの英語活動について活発な交流が行われた。3回の部会内で、話し合われたことは、グーグル classroom 内でお知らせし合い、都合のつく場合は互いに参観等を行った。ニセコ町の CAN-DO リストの見直し



- ・ニセコ高校放課後「アフタースクールワールドクラス」の取組



- ・国際交流員の協力を得ての授業

- ・8月22日(火)ニセコ高校の研修

高校での研修とコラボする形で、2年生の英語公開授業及び京都市立日吉ヶ丘高等学校

「英語村」における国際教育の取組についての講演を聞きました。



3 成果

今年度の具体的な成果物は「CAN-DO リスト」くらいではあるが、町内4校種の先生方が「英語教育」について活発な意見交換ができたことは、大きな成果と言える。今年度、本研究会がスタートし、3回の一斉部会以外にも、英語スタイル部会として互いにお知らせし合う取組を継続できたことも、次年度につながる成果だったと言える。

ふるさとスタイル部会

1 部会テーマ

- 「ニセコ町を探求する」ふるさと学習を推進する。
- 地域の教育資源を活用した取組を共有する。
- 子どもたちが、ふるさとニセコに愛着を持てるようなふるさと学習の「全体像」を整理する。
- 幼・小・中・高の校種間連携の取組

2 活動報告

【4月18日 第一回部会】

- ・メンバー確認、自己紹介
- ・今年度の方向性(部会テーマ)、年間活動計画の検討
- ・部会 GoogleClassroom を作成し、各校の実践をアップし交流していく。

【6月13日 第二回部会】<各校の実践紹介>

(1) ニセコ高校

- ・国際交流員や地域おこし協力隊との言語、国際文化の学習
- ・地域企業との商品開発 ・田植え実習 ・ホテル体験 ・田植え実習

(2) ニセコ中学校

- ・ウポポイでのアイヌ民族に関する学習 ・ニセコの検定問題を作成
- ・宿泊研修でのキャリア学習(専門学校などの訪問)
- ・職場体験訪問 ・ワイナリー体験

(3) 近藤小学校

- ・ニセコワイナリー体験、まとめ ・田植え

(4) ニセコ小学校

- ・ニセコ町観光協会 ・木育学習 ・田植え学習 ・SDGsフロンティアキッズ

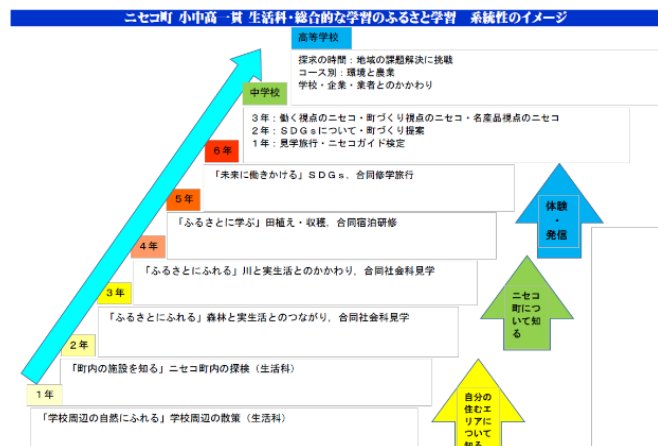


【8月29日 第三回部会】

- ・各校の取り組みの系統性をまとめ、「ニセコ町ふるさと学習系統性のイメージ」の検討

4 成果

・主に生活科、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間で行われている「ふるさと学習」の実践を交流できた。また、各校のテーマや取り扱っている地域教材の共通点を見出しながら、小学校から中学校の9年間の指導計画の体系化に道筋がついた。



特支スタイル部会

1 部会テーマ

- ①特別な支援を要する児童への対応(今年度の重点)
- ②校種間参観授業

2 活動報告

4月、6月、8月と3回の一斉部会を開催

- ・自己紹介、部会テーマの決定、各校種ごとの特別支援についての交流が行われた。
- ・3回の部会内では、特別な支援を要する児童生徒への対応～交流学习の目的、手立て、成果と課題、特別な支援を要する普通学級児童への対応等について校種ごとの取組について交流を行った。

- ①特別支援学級・・・学習前にどのような学習をするのかを確認、成功体験につながるよう準備をする。
- ②通常学級・・・支援員との信頼関係が大切。
- ③幼児センター・・・ゴールを明確にしていく、複数担任で対応する。手遊びなど取り入れ気を向かせる、話は端的に行う。スキンシップをして落ち着かせる
※スキンシップ、手遊びは小学校低学年でも有効なスキルとなる。

【公開研究授業】

①9月14日 近藤小学校5年生 算数

- ・担任の声かけや特別支援講師の支援のしかたについて提案授業を行った。



②11月15日 ニセコ中学校2年生 国語で公開授業研を実施

- ・指示が出されたあと、課題に取りかかっているか、該当生徒がスムーズに活動に取り組めるような配慮について提案授業を行った。



3 成果

- ・以下の3点が成果として挙げられる。

- ①特別支援学級に在籍する児童への配慮と通常学級に在籍する児童への支援の在り方の2本が本部会で取り組む柱であることの確認ができたこと
- ②各校での現状を交流することで課題が浮かび上がったこと
- ③今後、それぞれの取組から支援策の共有を図っていくこと